

アドレナリン不応例のアナフィラキシーショックに対するグルカゴンの使用について 【情報公開】

アナフィラキシー等に伴う急性低血圧またはショックを起こした患者さんで、アドレナリンに反応しない患者さん（特に β ブロッカーと呼ばれる種類のお薬が投与されている場合など）に対して、当院ではグルカゴンを投与します。適応外使用ではありますが国内外において、必要な場合には使用されており有効であるとの報告が散見されます。

本治療の実施について、各患者さんにご説明して同意をいただく代わりにお知らせをしています。詳しくは以下をお読みください。

この治療について拒否される場合やご質問がある場合は、担当医師、または下記の問い合わせ先へご連絡ください。

対象	アナフィラキシー等に伴う急性低血圧またはショックを起こした患者で、アドレナリンに反応しない患者（特に β ブロッカーという種類のお薬が投与されている場合など）
目的・概要	アナフィラキシーショックは医療上緊急事態のひとつであり、迅速な対応が求められます。発症時はアドレナリンの筋肉注射が第一選択となりますが、アドレナリン不応（効果不十分）の患者さんも存在します。日本アレルギー学会が監修する「アナフィラキシーガイドライン 2022」には、アドレナリン不応患者に対する代替薬としてグルカゴンが推奨されていますが、急性低血圧やショック時の補助治療としての使用は承認されていません。以上のような状況を踏まえ、当院ではアドレナリンに反応しない患者さんに対してのみ、グルカゴンの使用を行うことがあります。
実施期間	承認日（2026 年 7 月 28 日）から見直しが必要となるまで
実施責任診療科（部）	救急部
使用条件	投与中は心電図・SpO ₂ モニター（血液中の酸素の量を測定する機器）を装着し、不整脈や酸素化低下等の有害事象の兆候を早期発見、対応ができる体制で実施し、投与後は血糖、電解質測定を行います。
予想される不利益	アナフィラキシーショック、血糖異常等の有害事象が生じる可能性があります。
予想される不利益への対策	使用条件を遵守することで、上記を含む有害事象の兆候が認められた際は、必要な対応を遅滞なく実施します。
費用および補償	この治療は通常の保険診療の範囲で行われます。したがって、一定割合の患者負担が生じます。 適応外使用による副作用などが生じた場合、原則として「医薬品副作用被害救済制度」の対象外となります。

この治療（適応外）を行うことは、高難度新規医療技術審査委員会にて審議され、医療安全管理部 医薬品安全管理部門にて承認されています。

◆問い合わせ先

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

高知大学医学部附属病院

救急部、または薬剤部（担当部署：医療安全管理部 医薬品安全管理部門）

電話番号：088-866-5811（病院代表）